

私たちは愛するこの地で生き続けたい！

大地震・電源喪失で高レベル廃液が沸騰・爆発すると大破局！

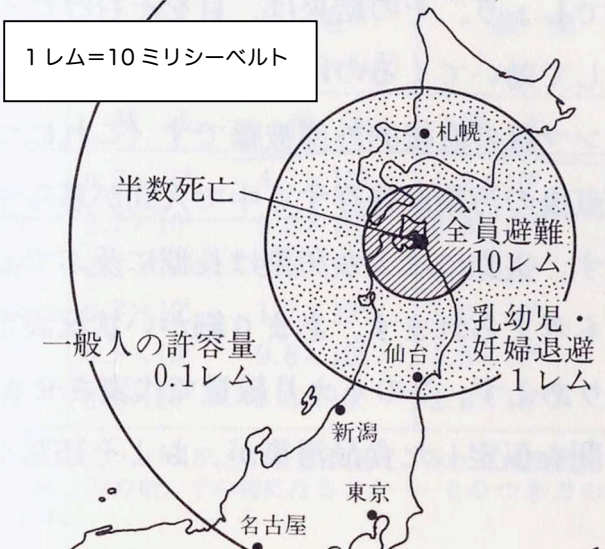
六ヶ所再処理工場には高レベル放射性廃液がチェルノブイリ事故の9.4倍の量が溜まっています ガラス固化しなければならない超危険物が液状で存在

大量に溜まっている高レベル廃液 現在六ヶ所再処理工場には約240m³の高レベル廃液が溜まっており常時冷却されています。電源喪失が起ると沸騰しさらに放射線分解水素による爆発の可能性も出てきます。右図はごく一部でも環境へ放出されたとき評価です。この真偽について国と原燃へ見解を問いましたが根拠資料がないのでコメントできないとのことでした。(原燃08.9、国08.12回答)

今回の福島第一原発事故を受けて私たちはこの危険性について4月27日午後1時半から原燃PRセンター別館で再度原燃を問いたし緊急対策を要請します。

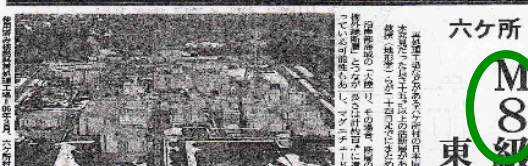
真っ先に被害を受けるのは従業員の方々です。黙っていはひどい目にあいます。私達自身が子孫私達そしてこの地を守るため納得のいく説明を求めましょう。

図Ⅳ-15 再処理工場事故の一評価例
(避難の区分は政府指針による)



「核燃料サイクル施設批判」高木著七つ森書館より
「高レベル廃液 100m³ を含むタンクが破壊されその1%が外部に放出されたとき」の評価例

「再処理」直下に活断層が



六ヶ所

M8級地震の恐れ

東洋大教授ら指摘

東日本大震災の元になった大地震 M9による大きな余震が想定されており、それがこの地で起こる可能性があります。

M8 が想定されているのに、これでは M7クラスで破局的事故の可能性！
これだけは絶対に避けたい

原子力産業新聞

1995年2月2日

号外 746 (第1777号)
発行所 東京電力(株) 編集所 東京電力(株)
1部 2,500円(税別) 2部 5,000円(税別)
定価 1部 2,500円(税別) 2部 5,000円(税別)

燃料サイクル施設 十分な耐震設計

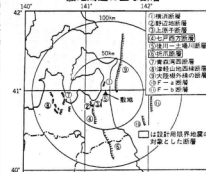
最大地震にも対応

日本原子力発電(株)が、福島県大飯町に建設中の「大飯原子力発電所」の燃料サイクル施設について、十分な耐震設計を確保していることを発表している。

この施設は、原子力発電所の燃料サイクルの一部として、燃料の再処理を行うための施設である。日本原子力発電(株)は、この施設の設計に、最大地震にも対応する十分な耐震設計を採用していることを発表している。

日本原子力発電(株)は、この施設の設計に、最大地震にも対応する十分な耐震設計を採用していることを発表している。

敷地周辺の主な断層



国民の半数死亡も

風下の数千人死

增殖炉事故 英で

【ロンドン十四日大高特派員】

【員】使用すみ核燃料再処理工場で、万一、冷却施設が不能になれば、西鉄入口の半数に当たる三千万人が強力な放射能被曝で死にすべし—こんなショッキングな内容を盛った研究報告の存在が、西鉄の連

わだ。政府はこれを参考に、今月中に運輸省保安基準で輸入車の適用時期を定める。

邦自然保護市民運動連盟によってスッパ抜かれ、報告を隠していた内務省と自然保護団体の間で大論争を呼んでいる。

市民運動連盟の発表によると、この報告は、内務省の委託でケルンの原子炉安全研究所が作成、昨年八月、同省に提出された。報告書によれば、再処理工場で冷却施設が完全に停止すると、爆発によって工場周囲百メートルの範囲で全住民が致死量の十倍から二百倍の放射能を浴び即死、最終的死亡者数は西独全人口の半分の三千万人を超える可能性があるという。

市民運動側は、内務省がこのような重なる研究結果を国民の目から隠していたことを非難、マイホーファー内相に「マト・ヘーマイヤー」科学技術相に対し引責辞職を要求している。また、同連盟の科学者グループは、この研究が主として

て冷却施設の事故だけを原因として想定し、地震、洪水、飛行機墜落、テロなど様々な潜在的事故原因に目をつむっていると、研究

電用高速増殖炉の
て、初期段階では
た地域に設けるこ

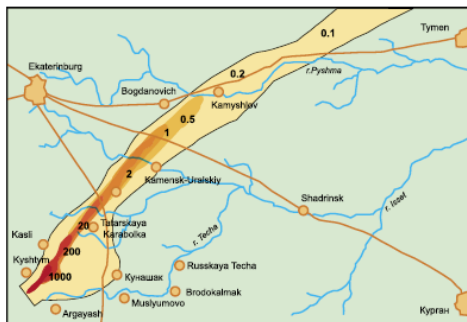
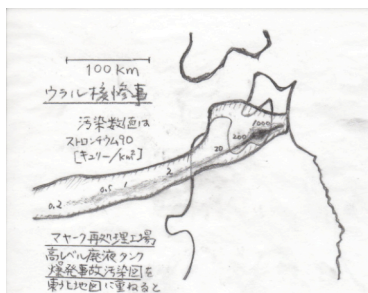
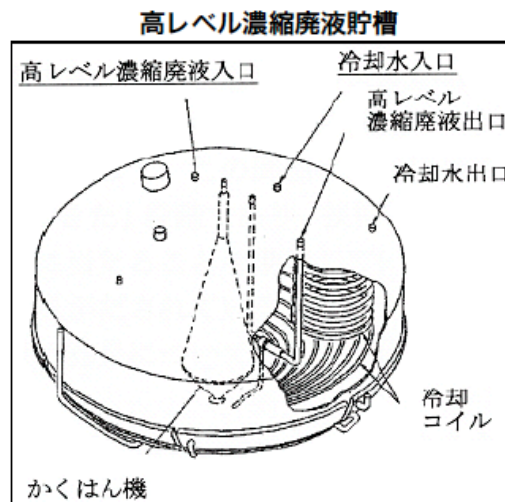


Fig. 4. Radioactive pollution as the result of the explosion on September 29, 1957 [4] (pollution density for Sr90 Ci/km²).



(問い合わせ 三陸の海を放射能から守る岩手の会 019-661-1002) 2011.4.26



日本原燃株式会社 再処理事業所再処理事業変更許可申請書」(1996年4月26日)より

廃液は常に冷却し、排気しなければならない。地震で停電になったり、冷却パイプが破断したりすると、15時間で沸騰する。また数時間で水素濃度が爆発下限になると学会誌に書かれてある。貯槽は10基、合計680m³

本格稼働になれば常時 500m3 貯蔵保管されるらしい・・・。

(事例) フランス、ラ・アーグ再処理工場

電源喪失高レベル放射性廃液 爆発寸前事

1980年4月15日、ラ・アーグ再処理工場の電源車で火災が発生、電源喪失状態になり、高レベル放射性廃液を冷却できず沸騰直前までになった。急遽約100km離れたカーン市に電源車を要請、3時間後に到着、13時間後にやっと冷却が始まり電源喪失状態を脱することが出来た。電源喪失状態が長引いていたなら沸騰・水素爆発の破局的事故に発展し北半球が広く汚染されていただろうと言われている。

の姿勢そのものも批判している。

これに対し内務省は、報告を公

設 画